

# 令和4年度 理科 授業改善推進プラン

## 大田区学習効果測定 結果の分析

- 4年生：校内平均正答率は、目標値をわずかに下回った。また、内容別正答率では、11項目中5項目（「植物の育ち方」「こん虫のからだのつくり」「太陽と地面のようす」「電気の通り道」「物の重さ」）において、目標値を上回った。一方、「こん虫の育ち方」と「じしゃくのせいしつ」については、10ポイント以上下回っている。
- 5年生：校内平均正答率は、目標値をわずかに上回り、活用においては、目標値、区平均を上回った。内容別にみると12項目中7項目（「1年間の植物の成長」「天気の様子と気温」「電気のはたらき」「物の体積と力」「物の体積と温度」「水のすがた」「物のあたたまり方」）において、上回っている。
- 6年生：校内平均正答率は、目標値を下回った。また内容別に見ても、各項目で目標値、区平均共に下回っている。

| 知識・技能                                                                        | 思考・判断・表現                                                                                                   | 主体的に学習に取り組む態度                                                                       |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| どの学年も目標値を下回った。<br>実験結果を丁寧にまとめたり、<br>分かったことを記述したりする<br>などして、知識・理解を増やして<br>いく。 | 5年生はわずかに目標値を上回<br>り、4年生、6年生は下回っ<br>た。<br>今までの経験や知識を活用し<br>て、実験結果からいえることを<br>考えたり、話し合ったりするこ<br>とで思考力を高めていく。 | どの学年も目標値をわずかに下<br>回った。<br>理科への興味関心をもてるよう<br>にICT等を活用し、指導を工夫<br>していくことで向上を図ってい<br>く。 |

## 課題〈今回の調査結果から〉

今年は問題の内容別正答率では、4年生は、「こん虫の育ち方」「じしゃくのせいしつ」で大きく目標値を下回った。また、5年生は「雨水の行方と地面のようす」、6年生では「植物の発芽と成長」「植物の花のつくりと実」「顕微鏡の使い方」で大きく目標値を下回った。

○知識・技能では、単に用語を覚えるだけでなく、観察、実験の過程やそこから得られた結果を適切に記録することが必要であり、その学習経験から知識も獲得できると考える。例を示したり時間を確保したりしていく。単元の終末には、学習したことを用いて身の回りの現象や事象を説明するなど、習得した知識を活用する場面をつくる。

実験や観察に用いる器具の使い方については教師が見本を示したり、実験や観察方法を考えさせたりしていく。

○思考・判断・表現の力を伸ばすために、単元や授業の導入時に、差異点や共通点を基に問題を見いだす過程を踏んで、問題意識をしっかりと持たせた上で考えさせていく。「問題解決の力（比較・関係付け・条件制御・多角的にみる）」を発揮しながら問題解決していくことができるよう、事実と考えを区別して実験結果を整理したり、実験・観察等をして分かったことを話し合う時間をとったりする。

○主体的に学習に取り組む態度については、自らの学習について振り返りながら学習をすすめることができるように単元の計画を立てていく。また、学習したことと日常生活での事物・事象とが結びつくことを実感したり、学習したことを日常生活で活用したりする経験を積んでいくことができ